

法華寺旧境内の調査

—第596次

1 はじめに

本調査は個人住宅建設とともになう事前発掘調査である。本調査地は法華寺旧境内にあたる（図221）。本調査地南東側では、既往の発掘調査で平城京二条条間北小路を検出している（平城504次調査）。調査区は南北5.5m、東西9.5mの計52.25m²で、調査期間は2018年1月10日～1月18日である。

2 基本層序

層序は地表から、①表土層（50～60cm）、②黄褐色土（整地土1、10～20cm）、③青灰色土（整地土2、約20cm）、④青白色砂質土（地山）である。検出作業は②の上面でおこない、遺構が検出されなかつた調査区北端中央の東西1.5m、南北0.5mの範囲を約20cm段下げし、③の上面における遺構の検出作業をおこなつた。また、後述の東西溝SD11206・土坑SK11218・11222の底面と南側排水溝にて③④の面の遺構の有無を確認した。

標高は、②上面は61.5～61.6m、③上面は61.3～61.4m。①からは近世の陶磁器・土器類・瓦類、②③からは奈良時代・平安時代の土器類・瓦類が出土した。

3 検出遺構

調査区内において、東西溝3条、南北溝3条、土坑15基（古代9基、近世6基）を検出した（図222～224）。遺構は整地土1の面、および東西溝SD11206底面で検出した。整地土2、および地山の面では遺構は検出できなかつた。

整地土1の面で検出した遺構

東西溝SD11206　　調査区南端で検出した素掘溝。約7.8mにわたつて検出した。幅0.5～1.7m、最大深さ約0.3m。南岸の一部と東側は古代の土坑SK11218、および近世の土坑SK11221～11223によって壊されている。奈良時代・平安時代の土器・瓦類のほか、炭を含む（図225）。

東西溝SD11207　　調査区中央で検出した素掘溝。約2.8mにわたつて検出した。最大幅約0.8m、最大深さ約0.1m。なお、後述の接続する南北溝SD11210・11211とは

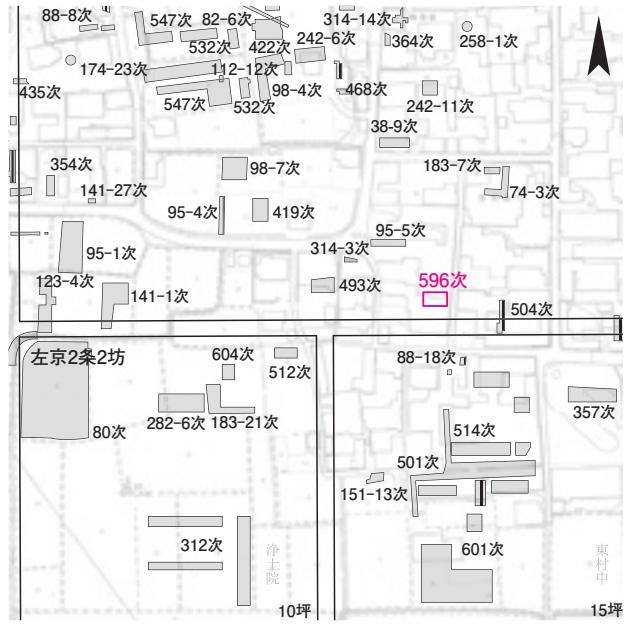


図221 第596次調査区位置図 1:3000



図222 第596次調査区全景（西から）